

「遺族支援現場の声」
自死遺族支援 24 団体に関わっている 26 名へのアンケート調査結果

2008 年 9 月 4 日
全国自死遺族総合支援センター

1. 地域
岩手、福島、宮城、群馬、埼玉、東京、神奈川、静岡、新潟、滋賀、京都、大阪、
兵庫、岡山、松山、佐賀、長崎、宮崎
2. 26 名の回答者が関わっている活動（複数回答あり）
 - ◆ 遺族の集い：22
 - ◆ 電話相談：14
 - ◆ 啓発活動（講演、執筆、シンポジウム等開催、HP を通して情報提供など）14
 - ◆ 面接相談：7
3. ご遺族はどのような経緯で参加（利用）しているか（複数回答あり）
 - ◆ インターネット：22
 - ◆ 行政の紹介（印刷物含む）：22
 - ◆ 新聞・テレビなどの報道：20
 - ◆ 友人・知人を通して：11
4. 参加されるご遺族が期待していると思われること（複数回答あり）
 - ◆ 自分の体験を話したい：22
 - ◆ 他の人の体験を聞きたい：22
 - ◆ 分かり合える人に出会いたい：22
 - ◆ 気持の整理のきっかけとしたい：20
 - ◆ 情報がほしい：11
 - ◆ 相談したい：10
 - ◆ 助言がほしい：4
5. ご遺族の期待に答えていると感じているか
 - ◆ 応えている：2
 - ◆ ある程度応えている：18
 - ◆ 応えていない：1
6. 活動分野でない支援をご遺族が必要としていると判断した時に、適切な機関・人につなげているか
 - ◆ つなげている：20
 - ◆ つなげていない：5

7. つなげている場合、その結果について
 - ◆ その後のことがわからない：13
 - ◆ 的確な対応がなされた：8
 - ◆ 対応は不十分：5

8. つなげている場合、連携先をどのようにして探したか（複数回答あり）
 - ◆ 日常の活動で連携している機関・人：15
 - ◆ 行政のリーフレット等：7
 - ◆ インターネット：2
 - ◆ 新聞などマスコミ報道：1

9. 関わっている団体が、活動を継続するためにどのような困難があるか（複数回答あり）
 - ◆ スタッフの確保：18
 - ◆ 広報活動：18
 - ◆ スタッフ研修・スタッフのケア：14
 - ◆ 活動資金：12
 - ◆ 他機関・他団体との連携：9
 - ◆ 会場の確保：5
 - ◆ 本当に支援となっているのか（成果があるのか）不安：4
 - ◆ 特に困難はない：2

10. 回答者が自死遺族支援に関わるようになったきっかけ
 - ◆ 自身の喪失体験：12
 - ◆ 遺族との出会い：10
 - ◆ 業務として：7

11. 自死遺族支援に関わっている期間
 - ◆ 1年以内：3
 - ◆ 3年以内：13
 - ◆ 5年以内：2
 - ◆ 5年以上：8

12. 回答者が活動を継続するために感じている困難（複数回答あり）
 - ◆ 時間の確保：17
 - ◆ 研修の場が不十分：8
 - ◆ 経済的な負担が大きい：6
 - ◆ 感情のもつれが生じる：5
 - ◆ 疲労の回復・リフレッシュが難しい：4

13. 今、もっとも必要なこと、見えてきたこと、課題など自由記載
 - ◆ 遺族支援への理解が深まってきた（10）
 - ◆ 必要としている人に、必要な情報をどのように届けるかが課題（10）
 - ◆ 遺族が安心して語ることの出来る場はまだまだ少ない、何よりも安心・安全と感じられること、自分だけではないと感じることが出来ることを大切にしたい（5）

- ◆ さまざまな啓発事業があるにもかかわらず、自殺は他人事ととらえている人が減少したようには感じられない(5)
- ◆ 「遺族の集い」の運営の難しさ(スタッフの質と量、参加者のニーズの多様性にどう応えるか、語ることの意味付け、参加者間の支えあいがある一方で、メール利用などによるトラブルなど)に悩む(5)
- ◆ 自殺(自死)に対する社会の偏見の根深さ(4)
- ◆ 都道府県に設置された自殺対策連絡協議会が機能しているか疑問、特に遺族支援に関して進展が見られない、遺族支援関係者の発言の場がない、地域によるばらつきが多い(4)
- ◆ スタッフ不足と資質の向上が課題、地方では特に研修の機会がない(4)
- ◆ 行政の積極的な取り組みが必要、民間だけでは限界(3)
- ◆ 支援の先に何が見えてくるのか方向性がはっきりしない。卒会(卒業)に向けてのかかわりが今後の課題(3)
- ◆ 予防活動に比べ遺族支援の優先度は低い(3)
- ◆ まだまだ参加者は少ない。活動のPRを通して、遺族が利用しようという気持ちになるための環境整備、啓発活動が必要(3)
- ◆ 遺族支援は「遺族の集い」だけではない(3)
- ◆ 行政の協力が得やすくなった(2)
- ◆ 直後の支援(シェルター、夜間の電話相談など)が必要(2)
- ◆ 後追い防止対策が必要(2)
- ◆ 行政と民間の連携の強化(2)
- ◆ 行政の意識改革が重要。現場で直接関わっている人は前向きだが、組織のバックアップや本庁の動きは遅く、やる気のある人がハシゴをはずされてしまう。研修など企画は多いが、もともと意識の高い人のみ参加している状況(2)
- ◆ 遺族のためのパンフレットは、病死、事故死などと一緒にすべての遺族に配布するものとしてはどうか(遺族の知られたくない気持ちにも配慮できる)
- ◆ 直後の警察の対応で傷ついたという声が多い
- ◆ 自死遺族だけに公的な資金が使われることを疑問視する声は多い
- ◆ 過労自殺対策(防止・救済・相談窓口)の充実が必要
- ◆ 行政主導の「遺族の集い」でどれだけニーズに応えられているか疑問
- ◆ 「遺族の集い」には若い世代が参加しにくい雰囲気がある
- ◆ ファシリテーター養成が課題だが、資質は養成して作られるものではないので、どうスクリーニングするかが課題ではないか
- ◆ 参加者が少ない
- ◆ 支援する側も、される側も成長できるようなプログラムが望まれる。何でもあり...ではない
- ◆ 「遺族の集い」に参加を続けてきた中から、支援活動に加わろうという人が出てきたことは大きな成果
- ◆ もっと声をあげて、地域での協力者を増やしていかない限り、状況は変わらない